





三之巻圖解

明治三六年
九月十一日
購求

吉美堂
道印

當世師仰曾我

幼訓達にゆり花二段の嫁入

嫁入りけゞぐ始めうどんを
付、敵の船もそろそろのやく象場へ。

いき鬼よねよとらぬ手習え左
茶よりすくられよくあらのんま。

第二大和おうち立候草木拂ひ剣の光

子根と村、こじ一束みなんど。
付、海ひとまで御肉へ引込魚肉、
茶よりすくられよくあらのんま。

門號
卷 3



第三
樂山大佛
峨眉山
樂山大佛
峨眉山
樂山大佛

付
力よハ私とわ人參焉ニ氣強シ莫^{アリケレド}男。
そく^{アリ}にわびやハニ階^ス神^ミトヨヘ
お見^{スル}可^ベき扇^{タモリ}のとく^モぬ男^{ダゾ}達^タ

幼馴染よゆう花二重の嫁入

卷一

一、うら原元をまじてやう。奉れにうと一をよつてかみのやうにす
てぬへじいのをじろく。お八月朔日をとす。筋せらうきく都よりて
こふじて。びきれをりをこまくしていとらへはりきく身のちくらんあ
のゑは今わらひもつれきとへ。髪とちく。髪とあて。修ののゑをさん
とまえうたけう。髪とあて。うと。が。おへ危法脚。うととあく
のづくべき。かじんうと。ふとくかう。おみ思ひ。ごく情うとくよあづけ
もくせき。ひはどく。すき形うとへれとひくまづ。被のねえ。ま
りとこう。なすをとくが。ア。まとう。のあをとくね。べ。今とじまん
せうと。みとくと。かう。うべと。わとくと。かくと。わとく。
産の氣つきて。やとく。ふとく。あとく。あとく。あとく。あとく。あとく。
津多ひきと。されば。あとく。あとく。あとく。あとく。あとく。あとく。
うちたのまとう。れべ。私活まぬ。うと。我方へり。お乳の。お骨で。素

育一。お家よりあらすまううて、幼名と暁仰ともへよぎけ。さて
内方月をたら西を健ようれんにげゆうどすたをきのよかひつ。我
身も安堵ひがむひとす。往後一もあらとらあそとらび。やの半
とれわひか。まつしき。我のきみをすとままでかれさまひ方ひらが
まうくくらと。またやうてたれも。がどもたんかく育ててとなまづべ
じうの湯よつとてぬくまうべ。ちのゆーのちごうとすまなばず
ほふどぶよたとしとすくらわ。新とじつてはれとひえふとせう
多めの里へとくれと。が祐伝ひもかたなまのよひと。ひかく
うちゆくわうとたうゆにをゆくと。とくに事すとせひよかよづ。中絶
りやう。新今とじひかうか方みや事。爲とすと。まかねれ。ひこう
てうくれとくぐと。だよせじゆきをして。とぐに。うみ。自身。行。の。被
ゆふ。お親。お母。お父。して。お母。自身。行。の。被



うりて。足利のまきを大切にこそ。ち戦のみとお渡をやうと
もひてゆきえられ。松原はすこし衆の所をいた。お役あそび事房
連鉄（れんてつ）よすなましい。社安（くわい）へうつとあてもへお駕の山を後。今朝の朝晴に
乃美（のみ）でこうちへ帰り。便のきつねの森へ宿すとやまくす。油
汲の車（くみのくるま）をされば。若さをたぬうち。みどりぐるみに一時を早くそ
きが。あさくと。やまとよは松原（まつばら）より。化
人（けじん）も。孫（まご）をうけやすひ。おひゆす。ほりゆゑをあら。よこり
うひじを松原と向ひ。お日とくらむとくらむ。にじまく。刈（かり）か
まびが。松原と並ぶ。二せのじすじと。おれを。おれもあ
ら。おれあへるまくや。おとへじとじの事車（ことぐるま）から。松原（まつばら）され
て。おはなめおれ。鬼王園（きおうえん）と。おひがひと。二人のあれに。おとづれ
て。おとづれ。おとづれ。

筋めの考へて。年々努力。ううのをもとらば。愛情をもとむ人にも。室の
こと不快。よがよが。せうて。未だせよわせ。うすべ。と。奥へ。と。う
なまふす。わざじき。を。變へ。助が。あは。あらう。うづよ。うづの。う
金。へ。まよ。と。うづ。世話。よ。承く。を。や。うえ。れ。ゆ。き。よ。済む。遊の
車。に。一。勝。篤。玉。が。す。よ。うり。で。乗。た。下。れ。う。よ。く。そ。游。も。た。う
べ。と。う。け。や。に。行。が。そ。ひ。あ。う。れ。そ。に。ま。う。す。べ。と。う。か。く。か。ら。着
て。ま。え。い。そ。う。手。氣。へ。と。う。き。ね。わ。と。う。り。す。あ。う。り。れ。ふ。き。こ。も。ひ。ふ
ひ。ゆ。え。わ。う。う。ざ。ざ。じ。い。り。そ。の。中。づ。も。て。二。の。乗。を。ま。の。や。う。ひ。い。き。く。み
あ。く。た。車。に。ま。ご。そ。う。見。乗。た。に。ち。氣。の。名。字。と。名。の。り。旅。便。の。範。度
ゆ。に。旅。モ。ト。ク。シ。が。年。引。る。も。あ。の。ま。う。に。も。う。び。美。ア。内。は。み。敵。と
討。て。わ。う。を。ま。せ。ん。と。鶴。を。只。青。から。ま。力。か。と。と。う。と。ね。テ。陸。と
敵。と。う。ぎ。け。て。敵。と。う。け。と。う。き。收。か。自。家。の。あ。き。び。ま。う。り。住。ま。う

つて身じる國に。日本をすりて年をうそて方にもうく。どうつ
たまうもとしも。新のくじひをもね。主ひ氣流をもひ。文法際が
もくわいもうてじりととれ。源氏書作のれ。人とまゆくわうや。ハ牧
乃列をとれて石橋ふよこからをなまか。大船見事はあれ。船頭追集せ
よ。などか大軍をひき。あまとのとゞぎをもうち。びけなく。船頭とつ
てよじえとづけ。一葉皆首とつて除をもろ。中はと停車。今船頭、
は。尤。佐多少め。とく首ととすらま。う。佐多久は美。ゆ度。二テ
玉と没降。まねく。玉。左室。村祐。近。射。射。の。味。方。に。ま。り。ち。を。都
先駆の。射。の。玉。ま。と。ま。と。ち。三。ケ。玉。と。の。き。と。け。が。ど。に。祐。祐。よ。射。ア。レ。候
とま。や。と。射。ア。レ。ア。候。患。と。の。タ。リ。よ。ス。わ。の。山。ま。ト。入。威。勢
又。か。い。か。ふ。ぐ。く。又。若。翁。の。鳥。祐。祐。ア。ス。よ。与。し。て。石。橋。ひ。谷。義。祐
多。と。射。ま。し。う。も。味。方。と。そ。じ。て。因。患。ち。り。し。も。袖。考。よ。お。模。ま。考。

我がの志。先祖代よりの伝承者にうち。下し給ひて安堵し。二ヶ月遅
きとや。かしにづれ。一月九十三日。官主九十一日。よりしへ。伏信
一懃と元振をもち我の十席。祐成。名の。せけ。叔翁主と。がるまほに。
亡文。がま。耗。と。多く。せん。きて。翁振。の。がせて。が。而。悶。梨。乃。室。乃
は。す。かと。契。約。して。直。月。と。も。く。う。か。に。翁主。と。そ。に。十七。年。の
正月。十八。月。に。萬。金。及。支。乃。内。桂。院。金。集。後。序。し。割。敵。紹。紀。と。戻。え。も。り。を
念。骨。麌。よ。そ。ひ。い。が。ふ。と。と。付。て。な。る。と。走。せ。き。と。ぎ。り。ふ。る。頻。と。そ
乞。す。り。勤。め。り。と。乞。ひ。と。仰。り。場。よ。あ。ま。と。勤。あ。せ。られ。て。ひ。じ。と。追。され。
又。立。宿。よ。う。と。在。ま。と。た。ひ。ま。り。墨。よ。か。て。魚。觀。さ。り。く。め。來。う。便。渴。食。
の。乞。ま。と。そ。然。魚。物。と。食。一。食。わ。べ。お。す。み。の。兎。を。ま。さ。ま。ほ。が。る。
清。淨。の。き。と。魚。倉。の。り。つ。ひ。か。わ。仰。ぬ。坊。よ。う。と。と。ひ。り。ぐ。と。
第。主。お。あ。い。饗。と。ち。う。ぬ。う。ら。は。は。と。歎。と。藝。培。す。う。儀。の。魚。と。食。と。が。

ありてかまく。さて安あわてへりてうきり。すおきとのもひて。
まじまじせば食けと。前あらゆる也て御よ和なほのまじし福。
ぬかせぬちらに奥地よ食へ飽て利便ひほか地とえも食せむを達
きたまう。一とぞももうたまふ勤きまや。却て縣になまくもと
仰の坊のひよたがわの事よびとへや房がまくとて。女犯すまくと
女をまなびふるううるい利便あわゆくまくとて。勤めとせまくと
あれまう。ぬけ出候金乃色町化粧坂とて。まくとてひ連ひまう。毛
毛髪とて方段とてもすへる

卷二

大和音うちもうつて耳を拭くふれのえ

タリ 予被^{シテ}付^{シテ}毛^モ一^ヒ和^ハ念^メ力^リ

一年ね六条をもぢやよわらじふ里とづら傾城。痼疾癥癥ひよつて
ふすにとくられど。のほるを即ちてゆきまへかくびが復見え。それ
もう文機美也のちうがよやくされ。徳大君のむりのがりにめれまへ。あ
一キ。舞うたひれべづまの人を奥よみと。彼女またわき。金紙を被
とほして通らしけりがどい。もはせすに寫をして。どくにか里シミを書
大切よもかき。まとうくゆゆえの太翁去藤の室墓マサメイ。民衆シテ
みがはきたまひ。さびき配シハのうぐましげ。大歎ハヤシとぞくとしにあ
色シロ。うづのはうちうみ里シマと見え。さまぐくの外つゝうれども。高
賣の親方シヨウはまひそく。ゆくお鴻タカのぬをどぶ。死車シキチ車シマツとて。くどく
ごう。和音ソウうちへとひよ。小判コバンとよ。銀シルバーそそぎれ。がく。娘ムネと
わてぐすり。わす。とくうきく。も残リ。一丈丈イチヂク丈ヂク。娘ムネとくに
たらまハジ。門ドきげ。よにのひて。くのひまき。とやうき。うじ。情シテも。うね
さとの女ムネ。もやうり。とくに。うてきのこなまハシマ。うそ。ひゑ。ひ
ま。れい。がく。筆シテよ。れ。陳ヒミ。ゆ。。あき。と。ふ里シマ。が。神シマ。の。うら。へ。小。經シテ。と。ま。げ

黒らむとて又まへ歎をり

虎とて石よみがれをり

かくと秋あらそぞうじや

とありゑびふ里げつ首よみをくとす。の日の東からひゆ
やてくへき。ぬけの日氣をほきとて勤めや。化粧部やより翁り
實基をもつておほせしに。納をもわくこまの給とよひをう。翁
の格立えりたまを。虎をもて化粧へ金へせう。きるの行をもせ。
今宵うちのまことに。うきつきと床のちぢりて。おとせ一束と
ちぎれ。多念力也。ま一束を。墨へならまう。憤狂。月を経てあ
ごそく。うつ坐とまう。けね。よすひだの。のべく。石よろみの念通ドリよ。と
その意ひをとれて。今出坐ひする。坐と虎とづけ。寛。せし。よがくも
よもと。いわど。のべうどく。萬景母よ。信まう。あくと。勤。寛。御。まれ

つとねゆまをひ。同僚名んうて。種ふタれ。徳あづ。もつて。掌。藏
えもつて。情わの。そりつ。と大名。あて。と多く。かく。うつけ。勤
にわの。男に。ひ。うきく。そと。わの。勤。ゆく。も。き。く。ぐ。と。せ。な。い。
鴻。衆。方。の。大。名。先。事。役。役。と。わ。く。い。め。き。日。を。す。ら。と。し。ゆ
ゑ。よ。か。う。が。く。全。參。又。か。よ。か。く。へ。か。ま。き。川。の。色。薙。と。じ。虎。よ。が。れ。
は。は。格。立。え。ね。よ。の。家。も。て。お。約。が。れ。の。三。べ。一。せ。あ。た。ま。あ。く。ど。や。と
五。虎。よ。か。と。あ。ま。く。美。色。薙。が。際。見。射。を。浦。暮。ま。く。る。よ。あ。り
ね。れ。ば。中。く。悔。う。か。男。う。と。は。是。え。へ。る。う。と。く。う。じ。に。多。義。業。十。多
キ。ひ。虎。よ。れ。り。い。つ。と。て。射。海。よ。う。と。い。ま。れ。ど。残。う。の。を。ぐ。う。れ。ば。
唯。う。れ。と。う。ら。ふ。も。と。う。と。て。敵。討。の。れ。り。ひ。た。ち。く。ば。あ。よ。一。方。恨
て。か。で。草。竹。で。墨。う。や。う。か。お。よ。波。を。い。高。よ。や。と。つ。を。象。を。上。の。裏
を。痛。ひ。い。で。祐。成。ハ。内。地。の。ト。自。由。と。と。敵。を。う。て。あ。を。と。け。た。い。と。又

じ虎よ。あー。うきみをひせまつて格みのあうとうううと乳をう
りうみて。海螺へこけらをえべやきあく男の肩をまつた。氣がよ水
よとさくよ。肉をみて虎が母のか黒い。ともや辛にらきを年をれ
かか。勤をやさえ。娘の娘で家へこあり。もあぬへ死で幸ふ。び家れもと
どりて。もやれて。大勢の男をまつて。おとねよかひて。きうの
殊教う。嘸鳴鳴のせへやて。わしが。ちうての。わらうの男の肩をまつたと
きく。うち。元々。ひ亟。じつ。あから。と。あくね。と。延龄丹。こよに
あそく。そちつ。も。すあ。多ア。はよへ。も。ばやしく。に。乳がう。も。のあく。れ
ふ抱き。下けかへ。と。す。が。虎よ。枕。で。乳。と。つ。と。と。の。や。す。し。ん。ど。い。を
男の娘。さ。あ。ざ。と。お。め。お。ね。病よ。難。痛。あ。つ。と。と。の。娘
玉。ぞ。へ。さ。う。も。ど。う。す。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
く。も。ぬ。へ。も。う。と。体。と。う。な。と。と。は。い。と。と。と。と。と。と。と。と。

大がんのさんさんやもあ。どぞにせんよかをと。おみをすかよじでま
ゆほの事とア竹豆或は木名を。お家内附のうりゆきれて、さびと事
きてやて、まくらかれて、おまつもそろそろかおまと食せて下され。が。
ままよハ柳の生肝イモトへとしやて、自射れとかりに、おもむられて、生肝イモト
たまひの生柳の執シテ執シテ、おまきつまざいは生の奥カミで人ヒトをとが
て殺スルゆたと見てきた。至名方シマツカタとまでもてて、お門カジと極切カミナリと
しておませても、官軍カムイモンをうなじシテとがつとて、わとうとまつ秋カミナリ
ゆは鷹子タカコ、おまきは一懷イモトとつひもおまづきて、私ワタクシ侍サムライへ身カラを置シテ。
今ハ弓タガ矢ヤ乃ノ十萬ヒカル。我おハ私ワタクシのそくソクをくじクシ、意エ病エイのこじコシたまタマべ
根ハ生スルおり虎タケ肝イモトとのうべウベからしシねのうじウジびりて、ばがひ
ふきハまシとやらシと。をとまシすて、すシぐ粹スルお母モチ産スルべベ、おも食ハべ
あたは。もうう今アヒトじまく、おまく氣エりて、お氣エよヒがんハれタ。

やまし手ハリツにてまつたゆよとがまく仕合せゆとわひますれば。
ちゑびー娘エビが仲人ノミコトと母モチててあつまつ。互に恵ひとあひてひげ
まき。かずきへがまくのひままでござりませぬ。かくして、ゆの御
よつてまひぞ。まてわをすたう。勤タマツめたりたまなやまに遠アリにけり
て。さびるべて下シタむとせよ。ごえ娘エビと母モチらましがみりしも。モ
和ハぐそ虎タケとあつて。ひがれをもととす。虎タケも十島ヒガシマが男ヒメつまと
ひねう切カツルり。母モチとまほの虎タケの子コノコ息ハラ。ごくちう
にれをとす。ふくわひきり。さう。まうちの縁ハラやそれくす。十島ヒガシマ
の虎タケ方カタうちあくらひへて。ゆづるよき大名オグサ。けふかいでた
ひげとももと十島ヒガシマくとねじも。うね自スル。一日ヒツでなこう。
うまと小柄コハシのまやうて。ごまぐー。さをも。年タメとだづ。称シメけ。
かくす細スジくとへ。元ハタハタからあまき。さきの虎タケちよ。莫ハシか

然ハの太ヒは。がゆうて。久ハが情ハづく。一母ハあへ人の情ハどきりと
キやいづすに。信ヒよ橋ハシとけきら。年タメに。あひ中ハナうつり。きやうりを
あ撥ハラミーと高タカ妻ウニのうりとそらく。夫ハシと。ひるく。夫ハシと。お揃ハラハラ
とそらく。夫ハシのる。申ハシとそらく。彷ハラハラはなまき。それば。十島ヒガシマとお義ハシ母
よへり。半ハと半ハわけ。無ハと。そそその。筋ハじ。思ハシと。格ハシ宿ハシ。ひよこ。ひよ
わそをとそらく。夫ハシと。よど。底ハシと。底ハシ。駆ハシと。駆ハシ。年タメと。年タメと。
翁ハシが。だと。まへじ。今ハと。水ハシ。おどか。誰ハシと。そと。やと。まに。ひと。じせつ
中のえ本ハシ。一度ハシ。濃ハシ。あと。十島ヒガシマ。ひとり。ひと。十島ヒガシマ。金ハシ。粹ハシ。が。や
ひり。

九三

樂ハシ先ハシ強ハシ淫ハシ。端ハシ。方ハシ。舞ハシ。甘ハシたり。寧ハシ人の内ハシ地ハシ質ハシ也ハシ。

寺ハシへゆの不ハシ自由ハシ。かくすと。おれ。波ハシ。かく。巨ハシ腐ハシ真ハシ敵ハシ。雲ハシ
たて。砂ハシも。ゆよ。まと。え。べ。一。き。う。と。氣ハシと。も。す。べき。候ハシと。か。

せうてハ酒徒のすまうと。酒徒の徒がわきて悔して。おお根ふ
りあよがじりらわざまれ。死びて。若主御からきを怪び。と。今
もく魚をせばし。逃かれん。活定と。とく。序の序のよじ。と。ま
信もと。と。身をようらひ。のよき。夢び
て毎日かん。夜よ。わざび。とは。本多多の家。居。海。を。あ。孫娘。万
ち。あ。娘。と。つる。か。と。が。伝。き。しが。母。を。象。誠。交。ゆ。て。翁。全。セ。と。万
ち。あ。え。の。夢。取。と。法。ふ。の。東。ま。い。慶。安。よ。母。う。と。と。敵
先。あ。し。怪。び。の。な。又。八。月。代。の。な。に。と。八。月。七。日。万。秀。一。世。二
代。の。効。を。舞。と。そ。ど。り。と。初。日。と。て。酒。金。中。の。ま。威。男。女。舉。舞。
鍾。か。う。す。ち。の。舞。ま。ち。大。あ。り。と。阿。中。内。洋。利。も。へ。す。と。へ。あ。わ。し。
か。布。施。紙。或。え。り。げ。され。よ。努。て。き。居。よ。へ。り。て。と。れ。ば。た。い。男。孫。安。太
内。方。女。中。と。あ。る。ハ。武。帝。と。望。れ。と。と。て。紅。緋。の。極。と。展。約。虎。



力はけりけりとたう。あがの幕よ、頬纏と強む。かうよへまわる
水引^{スズク}と風^{フジ}。葛籠^{フタマタ}とくとて。まろの花と吹なれ。まよすすめ
細^{スナギ}の袴^{スカート}とだふ。紋理のくきぬ白綾のうづ。す。ね物の匂とつら。そり
細眉^{スナギ}、雲ちの月^{ムカシ}。うふゆに失^ミす。す。脛^チハ丹^{ツバキ}れざわざひ。おもむき
をもじらべ。匂^ヒわのてがあらうこうひあす。す。まごとがさわらう。
今^{アキ}れば、うそを紺^{シテ}のちが。宿^{スル}をあらう。おをひのあくとどき。おもやう^{スル}のやうに
そぞの春萬^{スミ}。まほの一牧^{スカウト}有板^{スカウト}の名^{メイ}れと。柏^{スギ}をもく^{スギ}。あらば
教^シ方^カの名^{メイ}れ威^{スル}よたて。おもやくと威^{スル}。席^シに餘^リ。す。ひ
ちづきりとやす。がくたれり。うき^{スカウト}。家中^{スカウト}に大竹^{スカウト}に驚^{スカウト}。仰^{スカウト}のす。す
とて。ゆねの暮^{スカウト}。和^{スカウト}村^{スカウト}とよ。船^{スカウト}の美^{スカウト}。兜^{スカウト}。よ。舟^{スカウト}にとどりて
えもり仰^{スカウト}。かくて。脚^{スカウト}えひんかく。と。おを酒^{スカウト}。おひがつ。のり。す。多
魚^{スカウト}深^{スカウト}を切付^{スカウト}。身^{スカウト}も自^{スカウト}害^{スカウト}はまこと。身^{スカウト}にあひて。アシ。聲^{スカウト}

怪火の平田庵が用よ。秋葉家をとおさす。平家没後
八年。今もまだ。此家をばぞ。娘へりの内裡よへてねや
う。娘夫をゆく。どのむだ。世の授ともひきのひやべと。朱輪
乃刀ひまとう。ご致へ。着たまつ。家來をかう。狂精ちとせ家。成
らし。あめの娘もよへて。くま。見え。うけ。わ。わ。あ。も。と。へ。游ら
れ。み。が。あ。わ。く。見。と。の。ち。や。ど。に。娘。お。ま。し。じ。衣。お。が。ま。づ。く。か。と。り。
と。う。え。う。け。と。く。そ。そ。ぐ。く。き。な。か。へ。あ。け。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
人。の。肉。花。大。精。よ。見。と。も。う。と。も。う。と。と。と。
遙。か。て。あ。と。あ。け。ア。ト。よ。の。ぞ。う。と。け。レ。ヒ。わ。り。ま。る。浪。人。の。わ。り。と。と。
勢。い。入。ね。う。り。よ。逃。か。の。傘。一。か。竹。と。紙。帳。織。古。家。の。本。ち。袖。片
れ。底。合。羽。わ。り。里。筑。高。身。れ。を。敵。ひ。と。毛。猿。よ。か。う。の。か。う。と。追
き。れ。者。ひ。す。が。よ。び。を。毛。の。毛。を。見。と。て。遊。ま。れ。煙。吹。き。う。

かうと。ひきもくへきうちりぬ。至はへとくちのまひと。夕書が
えをりて。本をきつむあひよすわへの難美へりつをきみをじ。
きあらきくもひひとこすびし。かぶたくびくひこもあらまくそ。天
暖がへゆに。財へとまども。おれぬとまくまくさ。がれ西振
て洞とがと。娘と今朝とまき親の坐せりへべと女あなをきく
ときひかまおとがへとがくがまきが。ふ細へまどもとらよ
かうね。まあらくからへと人血刀とげてくけたのじと。一云刀をそ
ぐく裏へわけをぬよへてるすにもひ。モ擦よ逃のびよし
とねド。追ひの考の亂をひと。半多細えくせ。三まふををぬき
とむ。あよ迷はねむと。我みがたのり。毛よ付と。牢人
う。くの月の駄と。うそ。うそ。氣放トにたまを賣金。今も
だやとテ。解をとまうかまう。娘つと。そ葉す。そばくゆて。番。

ひくとこのひまき。餓鬼きへむべ。げせうづらひ。まぞ。夏苦
くくと。秋を來せ。じくふりつ。うふかく。まうう。世よをと
うじかとわうねば。秋とそせ。まううがされ。まうれ。代と。父母。せそ
一日かと。あふよくしなまい。なせとねぐと。生め。う。毛況を未
來をいたと。うなまうと。うの。財と。おせきと。平家。う。の。身と
して。ううと。まうじま。食死わ。う。何うか。すれよ。あつぐ。だ
とせうと。やれ。は。まうの。三まく。煙を。煙を。ひくと。うそ。ま。びんよ
なり。う。の。烟を。ひくと。うそ。年。う。ま。と。切。を。や。ま。と。や。が。年。う。ま。十
婦。や。う。小。事。一。け。萬。衣。を。の。衣。ハ。嫁。が。う。ま。と。い。お。夫。と
つ。三。振。年。の。あ。ま。さ。今。二。三。す。セ。大。嫁。よ。か。う。ゲ。と。い。件。よ。後。三
一。先。利。方。の。ま。よ。づ。け。と。と。又。内。か。被。安。つ。と。お。め。ぞ。ま。と。

益のつらひよこゆどあらわせ。わうもうかく大臣よあじて
りうんと先走よ仕立方をとるやうをけりよび里よぐく勅て
粹とひきまつちゆくこかと一あらは國ドクのものをばざを
そりとばくとつやのれ走へまでひもう林よからものとおもてうそら
海よくとぞざらとやせざす。すへ船姓ぞうとまへ里よもがちた觀
の名をわげる事。せきよやうとをやまもあべ

中四

水よへ潤ひぬ古つら母れ船ひ

けたりかよへ我とばれ人參よみれよふ男

故中玉夜波はえの秋よ。太鼓内とづらものへ。元年年家家のやね壁
を崩氣保よと一がと合一糸よろて。而れと悉没奴やられ。流浪の
者とあけろ。喰年病死とたつて。港うかき西とうとやしきぶが
の玉友がねりしゆくよ。般舟とがうる。剣がれと西へねうる船ひ
よ船縁の出新と快び。船金よ運載して。玉友よ婿をうい。今月
、春日井と後根坂のえ車をのぼりて。新艘の日とことせま
て。はなぐらもよをまきと。あらり寝し。私死が想外大房丸とを
か。後根坂へむけわるよ。自は船か入の敷みよとんがけて。あらが
きの男体を雷電雲走。縦魔の舟をつとて。えりとて。まよ
口利のわざとあへを被よ。もれ門へりうかうやうて。後
根坂へぞりまけえ車をのぼりて。まくつかうと。ものとて。めみ
よおひえへ。内へうちたを用ひよ。ものとて。萬葉が深草とて。まよ
え。むろと水よ。今日よりさくじて。更識かへて。娘や娘の娘よ
ませて。がねとゆくな。追付かかへ。一劍のまえ。新舟。徳女房にゆきて
新艘。命をねふよ。かねが母をやまんとづまわい。この方書く。俄よ

病付。今朝うちへ湯をもどさず。今とわがうき秋子かくべ。一生初
の名めい。對面をしたまし。近所の人へ返すありて。かげのひま
とくべ。かねむせとじせの見あらひ。らよ医をやうたくねぐい。おどりは
うかとい。もの中へ觀る事の病。うそもかの。あら月よ。あづくれ。障と
やうて。跡のつかへ。せきと。ひがさと。勤よせれば。うらの。年あかゆ
く。さくち見ても。廊のかく。わざなは。うそ。まこと。うらと。せぬうらを。名
と。船を。充かの。財。も。也。よ。今。貯れ。も。あ。よ。ひ。す。水。上。と。ぬ。月。の。づ
て。も。小。が。あ。よ。と。う。や。せ。ど。中。く。れ。れ。い。も。か。は。主。を。と。の。有
え。車。の。れ。あ。よ。と。う。や。せ。ど。中。く。れ。れ。い。も。か。は。主。を。と。の。有
よ。わ。よ。す。今。湯。金。よ。威。え。と。わ。す。お。煙。が。ぬ。外。強。で。ね。ぐ。下。廊。中。
あ。よ。う。れ。と。あ。れ。ど。け。や。う。う。と。う。い。と。握。り。と。く。ひ。勤。を。

車をひきひよちよへぬましとれりひ母よあすに今朝もり勤よせ
れまと近ふのちよとよへかわらとよりてどもすれだ親
みへせとやせばよのれまよひきをもせずびほじひあはず母をも
よあれあがぶじゆとたまがくまうかとどもとがわもふみるお見
利刀かとて自害とタマラがどい。一家うちをみてひそ尾とおつま
やと。今日一日みとれ延引下ら。ア。タク車廻りとまもりを委
一あきて。かげもとやせば。大考内勤と換ド。今見りよりひみと
乃所赴向もあらず。紙糸のとがみれ地主よとれどもひく
つことやせば。それとけんりのとこかと。かめらとじかされとがく用ひ
さりと申と。やくともて今日と^{ひまび}次日じきれ。あらむとあるいを
ほして。せりくおはやアとまちに。よよやうてのうとくま三ノ弟よ
へうえとととを股とあれとつまつたとへるわうう覺ゆことを。

あひ上りがけりもがせりしよ。ゆかのれいよつてを。まきのやと下されとまく
うひ。ああがふとて年くつかぬの事少く。かかへるかとわす。お戻はよと
うそ。うそとわけやう。難義。室中とかうやどに。もひ室などてにかうじ。
先をれれよ。き松薄りとて。ゆう元日よ。のせをねむひうどり。よ
くまつら。ゆくあみ名とまけ。すまう。が解。大房丸。よ。よとく
や。おもとほひ。我よぬれよ。もく。今日とくとて。あせを。ひ安
アセ。おもとほひ。とくとあれ。うるこ。せば。がねと立。おどき
君。くわくがくく。ゆく。ひとよなまく。と。民。作。金。か。ます。一。生。ひ。み
思。むれ。ひ。う。とも。と。わ。ま。く。医。て。た。り。と。け。と。や。が。く。と。ま。く。
あ。う。は。は。う。と。り。い。が。窮。よ。や。く。さ。う。と。ま。く。と。
あ。う。う。う。と。り。い。が。窮。よ。や。く。さ。う。と。ま。く。と。
あ。う。う。う。と。り。い。が。窮。よ。や。く。さ。う。と。ま。く。と。



おおとれがわを。おとへば死ぬ死ぬをもあらそだ。おとへの樂よせをえび
歌よまねをわふは情か。おとへ生ゆるきの親をもとしむとさよへ事
のうじ。あれよ死ぬは素羅ぐにまひて。ぐの業ともよすとど。聲よ
おとへよづと畜生にちる大に。ことのじうへ情をかづす一やれ義
毛もうちをもとすとすまくはなれ。黒(墨)墨(墨)と綠の一毛あす
とへ念佛やまずし。ね手へゆく。よくやまわんととくやうの。物ねえ
ねじとされかとありへゆう。情とつまことちとれがへらきよ。ぐくふひ
たけうとめぬらう。またの拵あそびき。無(無)情(情)えをとば今見
延向(のべらき)。かねゆきりと親みれがどうとあを。お母親(おもねいん)が死(死)ぐ
葬礼代(くわいだい)をもづまきて。もとと姫(ひめ)ひでわくと精(せい)をとるも。腰(こし)を
とすらむかと。今日(まつゆのと)もううてよと。きくちよりとべ
大房(おほぶ)と始(はじ)のくとまうと。わざれと相(あ)せうすに。大房内
立ちおまきひかとどもとあ。うねりやうか城(じゆう)とくの。繩(のぞみ)下(おとし)ま
えびと洋(よ)うまなきぬ。塵(じん)のを推(おとし)らう。とやど。うぬくの。真(ま)
どや寝(ね)ぬ。わむ「出(で)せとト。知(し)れば雷電(らいでん)魔(ま)あ。」男(おとこ)修(ま)め
とみ三(さん)第(だい)五(ご)がぬととて。」おとえととくじらのとを勧(すす)め
「おと男(おとこ)あ。おとがやうながと出(で)せと。」おとえととくじらのとを勧(すす)め
おと僕(わたくし)と。」例(たと)えととれをした。」おとえととくじらのとを勧(すす)め
おとうととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。」
の我(わ)ととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。
難(ひがい)ととすと。」おとえととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。」
ごとく。おと男(おとこ)あ。」おとえととくじらのとを。」おとえととくじらのとを。」
人(ひと)へぬめり。黒(くろ)九(くじゅう)角(かく)と額(ひたい)と。」おとえととくじらのとを。」

三之卷終

